

6月の実践

国語科：『くちばし』 めあて：みつつめの くちばしの もんだいをくわしくよもう

<主な学習活動>

- ① 本時の「めあて」を確認する。
- ② 三つ目のくちばしの挿絵を見る。
- ③ 先生の範読を聞く。
- ④ 先生の範読の後について、「はちどりのくちばし」を音読する。
- ⑤ 「ヒント」を捉える。
「ほそくて、ながくのびたくちばしです。」に色鉛筆の緑で線を引く。
- ⑥ 「問い」を捉える。
「これは、なんのくちばしでしょう。」に色鉛筆の青で線を引く。
- ⑦ 「答え」を捉える。
「これは、はちどりのくちばしです。」に色鉛筆の赤で線を引く。
- ⑧ ノートに㊦㊧㊨を文頭にして、教科書を書き写す。



自分の予想と比べながら、先生の範読を聞いている。

先生の範読の後について、教科書の文を指でなぞりながら音読している。



どなくちばしか予想し、「問い」と「答え」の文型を確かめ、色鉛筆で線を入れている。



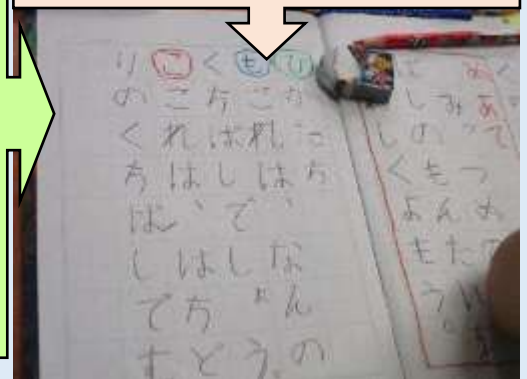
【言語活動の工夫】

色分けをするという活動を入れることで文章の内容や、「問い」と「答え」の文型を確かめて読むことができるようにする。

<色分け>

「ヒント」は、緑線や緑字㊦
「問い」は、青線や青字㊧
「答え」は、赤線や赤字㊨
というようにして、「問い」と「答え」の文型を確かめることができるようにする。

教材文の中から「なんの～でしょう。」「これは～です。」などを見付け、色分け表示をしてノートに書き写している。



【この学習で見られた児童の姿】

- ◆ 大半の児童は、ノートや定規、色鉛筆の使い方や使い分けができていた。
- ◆ 「これは～です。」という文章を見付け、ノートに書き写すことができていた。
- ◆ 一つ目や二つ目の鳥のくちばしで分かったことを基に、どこが「問い」、「答え」、「ヒント」か、順序や内容を考えながら、読もうとしていた。
- ◆ 文章の内容や「問い」と「答え」という形式に興味をもって読もうとしていた。
- ◆ 友達と色分けを見合って、確かめ合う様子が見られた。

- 幼児教育では、「問い」、「ヒント」、「答え」という形式のあるもので、次のような体験をしている。
例えば、「なぞなぞ」や「仲間集めゲーム」等の遊びや生活の場面での友達とのやり取り等。
これらの体験の積み重ねの中で、幼児は「問い」や「答え」という形式に興味や関心をもっている。
- また、幼児期に身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。
- こうした幼児期の思考力の芽生えは、小学校生活で出会う教科等の学習に興味や関心をもって主体的に関わることにつながっている。

★ は、活動や体験を通して、育つことが期待される資質・能力
【】 は、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）
○ は、幼児教育と小学校教育の学びのつながり

光法保育園 6月の実践

ねらい：イメージを膨らませ、丸や三角、四角などの形の組み合わせをしていく楽しさを味わう。

活動：自分なりに丸や三角、四角などの形を組み合わせて、街の中にある建物や車などをつくる。

自分のかいた道に、丸や三角、四角などの形を組み合わせて、街にあるものをつくろう

四角を細く切って、煙突をつくろう。

屋根は三角で窓は丸にしよう。
丸い家もいかな。



前回かいた道を基に街づくりをする際、先生は一人一人の思いや考えを丁寧に聞き、イメージを共感的に受け止めていた。自分の周りにある家や滑り台、木、煙突、車、バス、モノレールなどの形や大きさ、長さなどを考えて、形を選んでいった。自分のイメージに合わせて様々に組み合わせながら、主体的につくりあげていた。

★知識及び技能の基礎

【数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚】

ちょっとドキドキするけど、友達に作品の説明をしよう

窓や屋根の形の違い、車のタイヤの大きさの違いなど、自分のイメージに合わせてつくった作品への思いや工夫などを相手に分かるように言葉で伝えていた。友達も新しい考えに触れ、興味をもって話を聞いていた。

★思考力、判断力、表現力等の基礎

【言葉による伝え合い】

○ こうした経験の積み重ねは、互いの思いや考えを伝え、受け止めたり、認め合ったりしながら一緒に活動する姿や、自分の伝えたい目的や相手の状況などに応じて言葉を選んで伝えようとする姿などにつながる。

茶色の四角はホテルで、この四角は自動販売機だよ。

なが四角でいいことを考えたね。

自動販売機だったんだね。



道をつないでみよう。おもしろいね。もっとつないでみよう。みんなの街ができた！



ぼくの道とつながっているよ。

もっともっと、かきたいね。

道と道がつながり、街が広がっていく様子に驚きや不思議さ、面白さを感じる中で、友達の表現のよさに気付いたり、自分の生活する保育園や自宅周辺の様子にも関心がわいてきたりしていた。

★学びに向かう力、人間性等

【社会生活との関わり】【豊かな感性と表現】

○ 自分なりの表現が先生や友達に受け止められる経験の積み重ねは、友達と一緒に表現する喜びや表現する意欲を高めていくことになる。